

〔派 遣〕

派遣研究者 東京工業大学 理工学研究科 博士課程 Nitikarn Nimsuk

1072002

研究集会名 International Symposium on Olfaction and Electronic Nose 2007
(ISOEN Organization Committee)

開催期間 平成19年5月3日～5日

開催場所 ロシア 国 サンクトペテルベルグ 市

発表論文 短時間フーリエ変換と水晶振動子がセンサによる動的に変化する匂いの識別能力の向上
(Improvement of Capability for Classifying Odors in Dynamically Changing Concentration)

概 要

本国際会議は、E-nose分野において最も注目されている会議です。世界各地から主にE-noseを専門としている学者が集まり、この分野に関する最新かつ最先端の研究技術を発表します。今年は、ヨーロッパからの学者が最も多く、その他北アメリカ、アジアそして南アメリカからの学者が参加しており、約200人でした。発表は、約40の口頭セッションと約70のポスターセッションに分かれて、3日間にわたって行われました。

私が発表したのは開催最終日の口頭セッションでした。私の論文は、他研究者の論文に比べ、内容が多く多少複雑だったためか持ち時間内での質疑は、基礎的な質問が多かったのですが、発表後の休憩時間では、何人かの研究者から、さらに詳しく説明するようにと声を掛けられました。結果については、もう少し実験をして信頼性を高めるべきだという意見もありましたが、一方このようなアプローチ方法は斬新であり、大気において急激変化する匂い濃度を短時間に識別できることは素晴らしいという意見もありました。

今回、国際会議に出席したことは初めての経験であり、大変有意義でした。自分の研究に対する様々な意見をいただき、また他の研究を知ることによって、自分の研究の盲点や今後の課題が分かるようになりました。今後もまた会議に積極的に参加して意見交換等を通して研究を進めていきたいと思えます。